

第24回セミナーを開催

日本化粧品受託製造業懇談会

日本化粧品受託製造業懇談会(JC・OEM)は10月24日、第18回定時総会と第24回セミナー「製品化開発に潜むトラブル事例と、@cosmeから見る新製品のヒント」を開催した。



奥村 会長



山田 氏



セミナーに先立ち登壇した日本色材工業研究所の奥村浩士会長は、「インバウンド・アウトバウンド需要の伸長により、OEMメーカーは活況を呈している。そのため、この会社も人材が何十人足りないという規模で、多忙を極めている。このような状況の中、幹事各社の努力もあって、24回目のセミナーを開催することができた。今日の講演を、是非今後の業務に役立てて欲しい」と挨拶した。

河田氏は、「製品開発において、開発にあたるメンバーやプロセスと

同時に、他アイテムへの活用や販売地域を視野に入れなければならない。こうした開発時に起こるトラブルは、容器・製造設備自体の材質と原料の組み合わせや、原料中の微量成分、界面活性剤の量などによって生じる。過去の使われなかった知見を参照し、記録・記憶を求めると消費へと

移行している。消費者は、体験を通じて自分にとって特別なモノとなることを重視しているため、製品の物質的な評価より、情緒・感性的な評価を重視している」と説明した。

さらに、消費スタイルの変化の背景として、インスタグラムを代表とするSNSの隆盛を挙げた。自撮りやSNS上での「インスタ映え」の流行は、「自分」を露出させることから、自身の立体感や印象をコントロールする製品への人気につながっている。実際に、2017年のアットコスメのベストトレンド賞では、「自分」に合わせて選択できる商品がジャンルを超えて評価された。

山田氏は、「最近では資格を取得したが、イメージコンサルタントの仕事だけでなく、ビジネスマナーのテキスト作成や商品開発のマニュアル作成、アップルの立ち上げなど様々な依頼が舞い込んだ。

「ニーズを探る上で、1つの業務に絞るのではなく、頂いた依頼は全て引き受けた。始めは大変だったが、徐々に引き出しが増え、2、3年経ったらどんな要望にも対応できるようになった」

現在では、商品開発を極めたいという。(渡

「関心の高いこだわり」と『無関心化』の2極化が進み、時間消費にもモノ消費にもメリハリ型な行動がみられる一方、テクノロジーの進化を背景に影響力のある個人が増えている。こうした中にあるのは、生活者間のつながりの変化に寄り添うという視点が重要になってくる」と展望を述べた。

(禁無断転載) ©R
本紙の全部または一部を無断で複製複製(コピー)することは、堅く禁じられております。
本紙からの複製を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。



株式会社イメージ・ブランディング 代表取締役

宮本 雅恵 氏



忙しい毎日を通り過ぎて、両親の病氣など様々な出来事が重なり、1年ほど仕事を離れる期間があったという。両親も回復し、一段落した時、興味を持ったのが、人の見た目や話し方など印象を管理するイメージコンサルタントだった。

「人の印象を高め、輝かせる仕事をしてみたいと思った。今から新しいことに挑戦しても遅くないと思い、すぐに動き始めた」

その後同社を立ち上げ、AICI国際イメージコンサルタントの資格を取得したが、イメージコンサルタントの仕事だけでなく、ビジネスマナーのテキスト作成や商品開発のマニュアル作成、アップルの立ち上げなど様々な依頼が舞い込んだ。

「ニーズを探る上で、1つの業務に絞るのではなく、頂いた依頼は全て引き受けた。始めは大変だったが、徐々に引き出しが増え、2、3年経ったらどんな要望にも対応できるようになった」

現在では、商品開発を極めたいという。(渡

イメージ・ブランディングは、化粧品を中心としたビューティ&ヘルス分野のブランド立ち上げサポートを軸に事業を展開している。

宮本雅恵社長は、18年化粧品会社で化粧品企画・開発を行い、数々のブランドの立ち上げに携わってきた。化粧品とアパレルを

扱う総合ファッションブランドを立ち上げるというプロジェクトでは、プロジェクトリーダーとして様々な経験を積んだという。

「この時、販売スタッフに直接商品の説明を行うという仕事を任せられた。これが、伝えることに興味を持つきっかけとなった」

「人の印象を高め、輝かせる仕事をしてみたいと思った。今から新しいことに挑戦しても遅くないと思い、すぐに動き始めた」

その後同社を立ち上げ、AICI国際イメージコンサルタントの資格を取得したが、イメージコンサルタントの仕事だけでなく、ビジネスマナーのテキスト作成や商品開発のマニュアル作成、アップルの立ち上げなど様々な依頼が舞い込んだ。

「ニーズを探る上で、1つの業務に絞るのではなく、頂いた依頼は全て引き受けた。始めは大変だったが、徐々に引き出しが増え、2、3年経ったらどんな要望にも対応できるようになった」

現在では、商品開発を極めたいという。(渡

化粧品会社での経験活かす

多方面にわたり事業を展開